

令和3年度 組合資料収集加工事業

全国中小企業団体中央会では、中小企業・小規模事業者や組合等連携組織が、新たな事業活動への挑戦や組織体制の見直し等を行う際の参考になるよう、課題解決等に先進的に取り組む組合活動事例について調査・分析、収集・普及を行っています。

令和3年度は、「急激な事業環境変化に伴う対応・活動」「労働環境改善・人材確保への取組み」「地域の魅力発信による需要開拓」「特徴ある活動」の4テーマを取り上げ、専門家の協力を得ながら、組合活動事例のエッセンスを「先進組合事例抄録」としてとりまとめました。そこで本稿では、全国の取組み事例と群馬県より取り上げた事例（次頁）をご紹介します。

全国の取組み事例（一部抜粋）

デジタル技術活用「バーチャル展示場」家具産地の新たな販売促進

○諸富家具振興協同組合（佐賀県佐賀市）

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実際に家具を見てもらう機会が減少する中、組合WEBサイトをリニューアルする形で、新しい生活様式に対応した販売促進ツール「諸富家具バーチャル展示場」を構築した。各組合員のショールーム、工場、商品、資材等を360°カメラで撮影し、全方位パノラマ映像で閲覧できるコンテンツを作成。顧客は、スマートフォンやPC等にて実際にショールーム等を歩いているような疑似体験ができる。商品の詳細を確認することも可能で、従来の営業活動を補完する非対面型のツールとして活用している。

高等学校への出張講義により次代の後継者育成に向けた土壌を醸成

○茨城県菓子工業組合（茨城県水戸市）

茨城伝統の和菓子や地域の和菓子文化を後世へと残していくためには、次代を担う学生に対して和菓子文化の伝承・後継者の育成の機会が必要であると考え、農業高校の食品関係学科や製菓専門コースなどを対象に組合員が講師となり、製菓実習指導を実施した。受講者の中から、講師を担当した組合員企業への就職希望者が出ており、人材確保にもつながっている。

産地ブランド開発、組合情報発信強化による草加皮革産業の活性化

○埼玉皮革関連事業協同組合（埼玉県草加市）

草加の皮革産業の活性化を目的に産地ブランドを創出。エコ（環境配慮型）レザーブランド「彩鞆（さいほう）」ブランドとして、2011年「彩鞆SACO（サコ）シリーズ」（ブックカバー・名刺入れ等）の開発・販売を皮切りに様々な製品を開発・販売している。各種展示会や商談会等への積極的な出展、メディアを活用した情報発信も取り入れ、草加の皮革産業の知名度を高めている。

安心・安全な野菜のブランド化への取組み

○協同組合田布施地域交流館（山口県熊毛郡田布施町）

当組合は、地元で生産された農林水産物等を直売する交流館の運営を目的に設立。他の直売所との差別化を図ることを目的に「野菜安全システム」を確立した。このシステムは、栽培記録の義務付けと栽培履歴書による事前検査を行い、合格品のみが商品に貼付する販売用のバーコードを作成できるというもの。合格品には安全・安心マークシールを貼付し、抜き打ちで残留農薬検査を行い、安全性の高さを証明している。

一社では難しい課題解決に向けて協力し合える工業団地組合の存在

館林金属工業団地協同組合

住所	〒374-0042 館林市近藤町372番地の2		
URL	http://www.chuokai-gunma.or.jp/tatekin/		
設立	昭和47年11月	主な業種	機械金属工業、一般廃棄物処理業

■背景・目的

近年組合員各社では、新卒者向けの就職説明会に出展しても希望者が集まらないことが続いていた。ものづくりへの興味が低下している現状を再認識し、組合員からは戸惑いや危機感が湧き上がった。

企業単独では解決が難しい課題だったが、組合と組合員が協力し「ものづくりミュージアム」を組合事務所に常設。就職希望の学生だけではなく、ものづくりを知りたい社会人や小学生も見学を訪れる場所を提供している。

■取組みの手法と内容

当組合は団地内に組合事務所があり、共同受電事業などの事業を介して組合員同士、日頃から近所付き合いできる環境が整っていた。組合がある群馬県東部地域では、自動車産業や家電メーカーなどの工業が集積し、団地50年の歴史の中で新卒者の就職は活発な時期が続いた。しかし近年は、ものづくりの良さが伝わらなくなったためか、就職説明会で新卒者が集まらなくなった。ものづくり企業側として伝える努力をしてこなかったことの反省も含め、組合の正副理事長会議で意見交換が行われた。理事長1名、副理事長3名で構成され、かつて青年部で活動を共にしたメンバーであることから、理事会の前に課題の論点整理や意見交換など、気軽に事前討議を行うなどしている。こうして共通の危機感が芽生えたことで、組合員同士アイデアを出し合い、ものづくりの楽しさ、組合員各社の高い技術力を学生等に知ってもらうことを目的とする「ものづくりミュージアム」をオープンすることができた。

本件に限らず、当組合では様々な課題に対し組合員が積極的に協力し合っている。新型コロナウイルス感染症対策として、ポスターを作成し地域の啓蒙活動に取り組むことや館林市より依頼されたパーテーション作り、連携事業継続力強化計画を策定して自然災害に強い組合であることをアピールする等、一社では難しい活動に団結して取り組む関係性が築かれている。

■成果とその要因

ミュージアムでは展示方法に工夫を凝らしており、原始時代のものづくりから始まり、未来のものづくりが想像できるストーリー性を持たせるなど、ものづくりの楽しさを伝えられるよう心掛けてきた。また、ミュージアム見学に併せ、組合員各社の工場見学をセットにするなど、見学者の興味を引く工夫も行っている。こうしたことが功を奏し、クチコミや新聞等メディアを介して周知されるようになった。今後は、SDGsや環境対応への取組みについても伝えていきたい。



組合事務所の一室を改装し開設した
手作りの「ものづくりミュージアム」



パネルやリーフレットを多用し、
組合員各社の製品・技術を分かりやすく展示



POINT!

近所付き合いと言える関係性が組合と組合員企業同士で築かれていて、一社での対応が難しいと思われる取組みにも、協力して解決することができる歴史ある組合。